

奄美でレコーディング

古賀さんが徳三宝をたたえる歌

バルセロナ五輪金メダリストで、現在は古賀塾塾長として、後進の指導に当たっている古賀稔彦さんが二十九日、徳之島町出身の偉大な柔道家・徳三宝「故人」をたたえる新曲「柔道二代 徳三宝」のレコーディングのため、奄美大島に来島。同曲を作曲した久永美智子さん（六〇）奄美市名瀬在住の助言を受けながら、二日かけて歌を収録した。曲は年明けに録セントラル楽器（同市名瀬）から発売予定。

セントラル楽器から発売へ

歌手手は島の柔道家、プロの女性、男性歌手など数人の候補が挙がっていたが、同社の指宿正樹

社長が柔道家としての古賀さんの生き方に引かれ、熱心に依頼。古賀さんは「柔道家として、柔道の歌を歌えるチャンスがあれば、真正面から受け止めたい」と快く引き受けた。

初日は同社のスタジオで二時間のリハーサル、最終日は三時間かけて収録を行い、作詞の恵沢彦さん（六五）奄美市名瀬在住、久永さん、指宿社長も様子を見守った。同曲で歌手デビューとなる古賀さんは「練習してない人が試合に出るような気持ち」とやや緊張した面持ちでスタジオに入ると、何度もしゃもや音階を確認しながら、レコーディングに臨んだ。

久永さん（手前中央）の指導を受けながら、歌を練習する古賀さん（同右）、見守る恵沢さん（同左）

が、歌はない。歌にすることで、より多くの人に徳三宝を知ってほしい」と初めて作詞を手掛けた。「書いているうちに、自分が元気をもらった。徳三宝の魂が乗り移ったよう」と満足感を表していた。

久永さんは、「加計呂麻繁情」など多くの新民謡を作曲し、島の音楽界を代表する作曲家。「詞を読んで力強い雰囲気を感じた。誰もが歌える応援歌として広がってほしい」と期待した。



レコーディングに臨む古賀さん

